

関係各位

レンゴー株式会社  
広報部

## 利根川事業所において発電用バイオマスボイラ新設

レンゴー株式会社は、このたび、環境目標として掲げる CO2 削減に向けた施策の一つとして、燃料転換を進めるため、利根川事業所（茨城県坂東市）において、発電用バイオマスボイラを新設しますのでお知らせいたします。これは、八潮工場内の設備に次ぐ2機目のバイオマスボイラで、本年10月に稼働する予定です。

利根川事業所は、製紙・紙器の2工場からなる当社の基幹事業所の一つで、年間約35万トンの板紙生産と、多様な加工紙やマルチパックなど、紙器製品の印刷加工を行っています。

新設した発電用バイオマスボイラは、首都圏で排出される建設廃材由来の木質チップやRPF\*、廃タイヤなどを主な燃料とした発電施設です。利根川事業所は、2007年に重油からLNGへの燃料転換を実施しており、バイオマスボイラによって再生エネルギーへの転換をすることで、CO2排出量はさらに年間約90,000トン削減される見込みです。

当社は今後も、CO2排出量の多い製紙工場を中心に燃料転換を進めて、環境負荷低減に向けた取組みを積極的に行ってまいります。

### <バイオマスボイラ設備 概要>

所在地	茨城県坂東市（利根川事業所敷地内）
設備名	3号ボイラ設備
燃料	木質チップ、RPF、廃タイヤ
蒸気量	117トン/h
CO2削減量	約90,000トン-CO2/年

\*RPF（Refuse Paper and Plastic Fuel）は、産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした固形燃料



3号ボイラ設備

以上